

学校教育目標	「心豊かで自ら求めて学び 生き生きと活動する生徒の育成」
--------	------------------------------

a ミッション	小中連携教育の充実による主体性・表現力の育成	aビジョン ○ 生徒も教職員も生き生きと活動するあたたい学校 ○ 学習環境が整った規律ある落ち着いた学校 ○ 家庭・地域から信頼され、共に歩む学校	尾道市立 因北中学校
---------	------------------------	--	------------

評価計画						自己評価				学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
授業改善による確かな学力の定着	思考力・判断力・表現力を高める活動の充実を通して、学びを深め、学力の定着を図る。	思考力・判断力・表現力を高める活動の充実を通して、分かりやすい授業づくりを進め、学力の定着を図る。	・「授業では根拠と理由を明らかにして伝えるようにしている」生徒の肯定的回答 ・標準学力調査、実力テストの正答率、平均以上の教科数 (4月：1年生4教科、2年生5教科、3年生5教科 合計14教科) (1月：1～3年生各5教科 合計15教科)	80%以上 100%	78.9% (3年生) 国+1.9 数+6.5 (2年生) 国+6.7 数+0.5 社+3.0 理-6.7 英+2.8 (1年生) 国+6.2 数+8.6 社+0.4 理+4.9		98.6% 90.9% (今回は、11教科で算出)	B B	・生徒は「根拠と理由を明らかにして」伝えるようになっているが、目標値には達しなかった。活用の場面になると「根拠」と「理由」の区別がつかない生徒がいる。今後は、資料(情報)を取り扱う授業を仕組み、根拠をより明確にする場が必要になる。 ・この度、3年生は全国学力学習状況調査(2教科)で数値をみとっている。2年生の理科において全国平均を下回った。学力分析を行い、課題を明確にするとともに思考力・判断力・表現力を高める授業を計画。共有し、生徒が主体的に取り組める授業づくりを進めていく。	○	○	○	・「根拠」と「理由」を意識している生徒が多くいることも想像できる一方で、自分の考えのものとなるものを多くの情報から読み解くことがどのくらいできているのか。 ・根拠と理由を明らかにすることの難しさがある。方策や結果から見えてきたものを大切に取組を進めてほしい。 ・「根拠」と「理由」を明らかにして伝えることは、非常に重要だと思う。宿題名などで記述式の学習を増やしてはどうだろうか。 ・学力調査や実力テストの全国平均を見て、すごいなと思った。目標値の設定が高すぎるのではなかったが、以降も生徒の力となる取組を続けてほしい。 ・学力分析の結果から「根拠と理由」にこだわった取組に焦点を当てられたのだと感じる。子どもも現状に合った、因北中ならではの取組を進めてほしい。 ・2年生理科の結果に対する原因の把握、今後の取組に期待する。 ・全国平均を下回った科目の中でも不正解が多い分野を重点的に復習したり、宿題や小テストをしたりしてはどうだろうか。	・引き続き「理由」と「根拠」を明確にした授業づくりを行うとともに生徒への定着を図る。 ・授業づくりでは、多くの情報を取り扱わせたり、整理させたりする活動を仕組んでいく。 ・各種学力調査の結果分析をもとに、課題を校内で共有し、授業改善を行ったり、宿題や小テストを仕組んだりしていく。
積極的な生徒指導の推進	自主的・主体的な活動を通して、自己肯定感を高める。	生徒会活動を活性化させ、一人一人が役割を主体的に果たし、諸活動の充実を図る。	・「学校が楽しい」生徒の肯定的回答	80%以上	82%		102%	A	・学校行事では、生徒会や団長を中心に生徒が自分たちで取組を進めることができた。 ・各委員会を中心に、「いいねツリー」「友達クイズ」「異学年レク」「異学年掃除」など他学年との交流を通して、生徒同士の頑張りや認め合い、励まし合ったりできるような取組を行った。 ・自分にはよいところがあると思う生徒の割合が低く(74.0%)、自分に自信が持てない生徒が多い。今後も、お互いが認め合い自己肯定感を高めていけるよう、様々な取組を進めていく。	○	○	○	・様々な取組を仕組んでいることが成果になっていると思う。多くを体験を通し、それぞれのよさを感じ合えるものになっていると思う。 ・人は「でこぼこ」だから人と関わる意味やよさがあり、その「でこぼこ」があり、その人らしきがあるのだから「いいんだ」と実感できていると思う。異学年での活動は、そういう意味でもよい取組だと思う。上の学年へあこがれが「なりたい自分」をより明確にし、同学年とは違う自分を発揮したり、互いを認め合ったりできると思う。 ・学校が楽しいと思ひに付けられることが大切。楽しくないけど「～があるから」頑張るって学校に行こうという生徒もいると思います。目標を持たせることが大切だと思います。 ・自分が中学生のころ、「昨日の日は今日の非なる」と、長所と思っていたことがもしかしたら短所かもしれないと分らなくなることもありました。多くの体験を通して、自分を作って欲しいと思います。 ・自己肯定感の数値を上げるために、他校との交流や外に出ていく活動により視野を広げて欲しい。 ・肯定的な回答、行動、考えができる授業や部活動であって欲しい。クラス、学年、学校でフナチームでポジティブな声掛けをするようになれば、前向きな楽しい学校生活になると思います。	・長期休業中に、アセスの結果を分析し、生徒に対して学年やクラスで具体的にどのように対応していくのか研修で話し合い実施していく。 ・各学年の実態に合わせて、1分間スピーチなど自分の考えを相手に伝える取組を行う。また、話し内容を肯定的に評価し合い、自己肯定感の向上を図る。 ・各委員会で、学校の課題を考え、委員会の特色に合わせて課題解決に向けた取組を行い、生徒会活動の活性化を図る。
働き方改革の推進 信頼される学校づくり	組織として、業務改善、信頼される学校づくりを進める。	生徒に向き合う時間を確保するため、各分掌で現在の業務の軽減や効率化を図る。	・「日々の業務の中で、充実感を得られている」教職員の割合	100%	85.7%		85.7%	B	・尾道市「学校における働き方改革アンケート」の結果、「日々の業務の中で、充実感を得られている」の肯定的評価は85.7% (中学校平均77.4%)であった。(人数すると2名が肯定的回答) ※「児童・生徒と向き合う時間が確保できている」については肯定的評価100%であった。 ・年度当初の校内研修で、自分にとってのやりがいは何か、どのようにすればやりがいアップにつながるか、個人でできること、組織でできることを考え、交流・共有した。 ・今後、やりがいが持たない原因を探るとともに、やりがいを持って働ける環境づくりに努めていかなければならない。	○	○	○	・「自分にとってやりがいとは」という研修は意義があると思う。自分次第でものの見方・考え方も変わるものだということを意識できると思う。 ・目標は100%でも、実際はそうでなくてもよいと思う。しんどい時、前向きになれない時があっても当たり前。それぞれが少し互いのことを思い合うことができるとよいのだと思う。 ・生徒以上に頑張ると、楽しいやりがいのある学校になりますように・・・ ・生徒と向き合う」ということがどれほどのものなのか、それによって生まれるストレスはいかほどなのか。一人一人に真正面から全力で取り組んだら、べちゃんこになってしまおうというのは想像できる。教員・生徒ともにストレスの少ない学校生活の在り方、難しいですね。 「程よい距離感」ですかね。 ・肯定的回答の2名。意欲のない人や活躍の場がない人がそう思うのだと思う。個人の問題とせず、職場全体で目的を共有し、活気ある職場になれば良いと思っています。 ・校内で取組を共有していくことは大事だと思うが、結局は「教師個人として、何にどう取り組むのか」と自分事として進めることが大切だと思う。「私はこうした。だからこういう結果が出た」という発表の場を共有してほしいと思う。 ・教職員間で相談したり、業務の手助けができる環境ということは、風通しの良い良好な職場づくりができているのだと思う。先生たちの良い人間関係が生徒たちにも伝わって、良好な学校環境になればいいですね。	・「働き方改革アンケート」結果をもとにした研修をしたところ、充実感を得られるようにするためには、「お互いに感謝をつなげる」「小さい目標を立て、達成感を味わう」「チームで動く」「自分から動く」などの意見が出た。次は、それぞれで何を大切に取組を進めたか、その結果、どうであったかを交流する場を設定する。 ・折に触れてストレスチェックを行い、自分の心身の状態を把握するとともに、ストレスを抱えている教職員にはしっかり話を聞く、業務分担を見直すなどの対応をしていく。

【自己評価 評価】
A：100≦(目標達成)
C：60≦(もう少し) < 80
B：80≦(ほぼ達成) < 100
D：(できていない) < 60

【学校関係者評価】
イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。